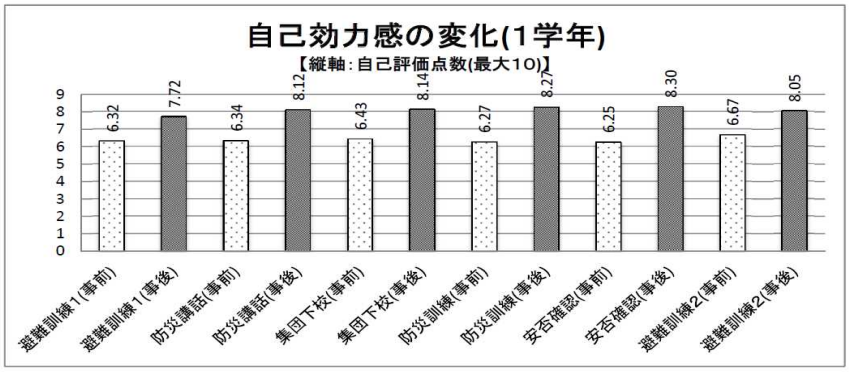
成果と課題

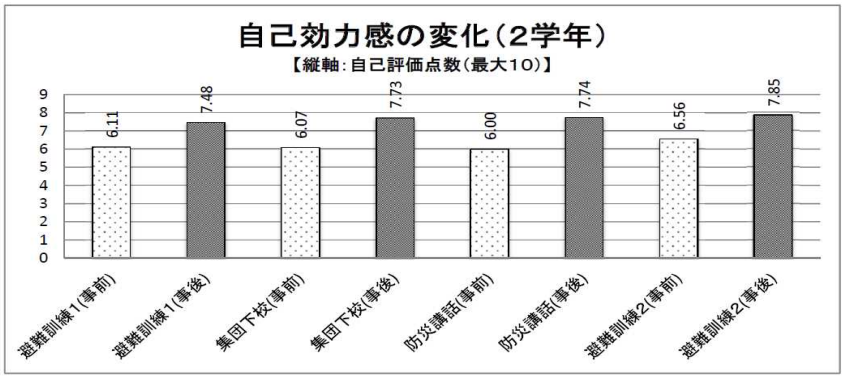
1　防災教育の目標に関して

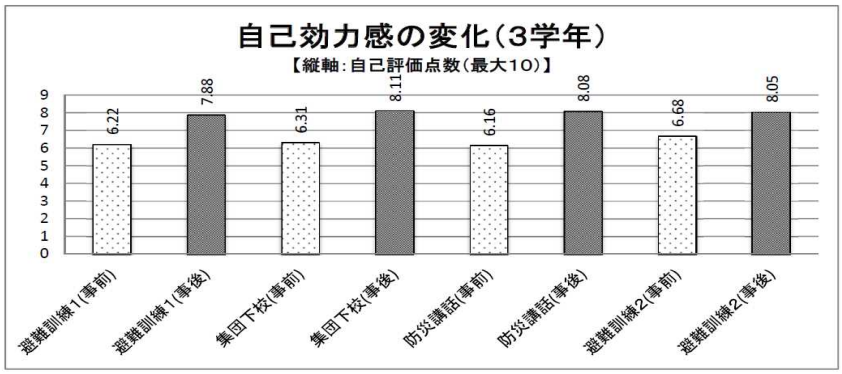
本年度は「社会の関わりや自己の在り方を改善する生徒を育てる」という目標の下，防災教育で育てたい力として「自己効力感」を掲げ取り組んだ。また，同時に防災教育を足掛かりとした，地域連携を進め地域教育力の向上を図りたいという期待も含み本年度の防災教育に取り組んだ。

「自己効力感」とは，一般的に，人が何らかの課題に直面した際，こうすればうまくいくはずだという期待（結果期待）に対して，自分はそれが実行できるという期待（効力期待）や自信のことを「自己効力感」という。非常時において様々な問題や課題に直面したとき，その直面したことに乗り越えられるだけの力を生徒につけさせたいと考える。本年度は，自己効力感の変化をアンケート形式で生徒に行事ごと取り，その変化をデータ化した。

結果は，以下の通りである。







どの学年も，防災行事に対し，事前にとった結果より，事後にとったものの方が，高い値を示している。このことは，防災行事を行うことによって，「自己効力感」が上昇することがわかる。しかし，自己効力感は，持続することはなく，次回の行事前には，ほぼ元の値まで低下してしまうことも同時に受け止めることができた。

しかしながら，継続してデータを比較すると，僅かながらではあるが，グラフは全体的に右肩上がりを示す。このことは，一見，持続することが無いようにも見える「自己効力感」が，経験を重ねることによりある種の自信を生徒に生み出しているといえる。防災教育の取組が「自己効力感」を上昇させたと考えられる。

今後，中学校における防災教育を進めていく上で，効率よく経験を積み重ねさせること。また，様々な角度で生徒に触れさせていくこと。そして効果の高いプログラムの在り方の編成をすることを課題とした上で，防災行事を精選し，着実な「自己効力感」を育成することができる防災教育の在り方を今後も探る必要がある。

このことは生徒の将来を見据えた防災対応力の向上のみならず，生徒を豊かな大人へと成長させることを助長することになり，生徒の社会にたくましく生きる力を育てる「仙台自分づくり教育の推進」繋がることでもあると考える。

今年度は，全職員協力のもと，防災教育の在り方を探る上で貴重なデータを蓄積することができた。来年度以降もこのデータをもとに，生徒にとって有意義な防災教育の在り方を考え実践していきたいと考える。

２　成　果

(1)　小学校との連携

ｱ)　防災主任の安定した連携

平成 24 年度から３年間，防災教育モデル校として培ってきた連携を，今年度も継続して行うことができた。長町小学校，鹿野小学校，長町南小学校，そして長町中学校の４校の防災主任の連携した活動は形を変えながら，今年も定期的に実施し，「防災フォーラム」や「太白区小中学校防災主任連絡協議会」を開催する原動力となった。

平成 24・25 年度は「長町中学校区防災モデル校連絡協議会」として，平成 26 年度は「長町中学校区小中連携協議会『防災教育連携部会』」。そして，平成 27 年度は「太白区小中学校防災主任連絡協議会　役員会」として，その名称は変化しながらも計画的な活動を進めることができている。

ｲ)　長町中学校区小中連携協議会　地域連携・防災教育連携部会

地域と連携した活動を行うことにより，家庭教育力の意識の向上を期待できるとともに，地域防災対応力の向上も同時に期待できる。このことを，小中学校共通の意識で取り組むことにより，より強固とした一貫性のもと生徒をより社会にたくましく生きる力を育てられるものと考える。本部会において小中９年間を見通した防災教育の流れを再確認し，学区内の小学校による大きな格差なく防災教育を受けた状態で中学校に入学してくる状況を作ることができるようになっている。

(2)　防災フォーラムの実施

今年度は「防災フォーラム in 長町『地域防災を考える』」を実施した。平成 26 年度，役所・地域・学校で避難所に関わる運営の在り方を探ったのに対し，今年度は異年齢集団【小学生の代表（教員），中学生，大学生，親父の会代表，SBL の方】を構成し，それぞれの年代や立場で防災や地域との関わり方を考え，意見を交わす機会を設けた。地域連携でも課題とされる親の世代の関わりの希薄さや，中学校を卒業した後の若者の関わりの在り方など，防災を絡めながら今後の地域連携のあり方を探ることができた。

(3)　様々なボランティア活動への参加

今年度，様々な地域行事に対し，積極的に生徒のボランティアの参加を促した。これまで「地域と歩む学校」として「ともに！チーム長町プロジェクト」を展開してきたが，ボランティアの枠を拡大させ，町内会行事や市民センターの関わる行事などに多数の生徒がボランティアとして参加した。このことは，生徒が地域の方々と顔と顔の見える関係作りを推進することに繋がり，地域防災対応力の向上にも繋がる期待が持てる。

(4)　保健安全防災部会の新設

本年度より主たる部会を再編成し「保健安全管理部会」から「保健安全防災部」へ変更した。そして，管理部門は「事務管理部会」へと統合した。このことにより，より防災関係の事項について職員の意見集約・浸透がスムーズとなった。防災行事等において，昨年までの反省を生かし，生徒により必要で，充実する内容へと前向きに改善することができた。

３　課　題

(1)　太白区小中学校防災主任連絡協議会の今後

平成 27 年度より，市教育委員会主導による「各地区防災教育推進協議会」が新たに組織され，活動を始めた。「太白区小中学校防災主任連絡協議会」とその役割が重複するところがあり，先生方に今後の活動の方向性を決めるアンケート調査を行った。その結果，情報交換の場としていた「第２回　全体会」を今年度から取り止め，活動を縮小した。先生方の負担を考えながら，今後の活動の方向性を探っていく課題が残る。

(2)　地域との連携の在り方

様々な団体や地域の方々と連携し行事を行う必要がある。意識的に，打ち合わせを密に行ってきてはいるが，行事への取り組み方など意見・要望も増えてきている。今後，様々な面で継続していくことを前提とした場合，学校主導で行っている体制に対し，共同で行っていく体制にシフトすることが必要な面が出てくる。つまり，「学校に協力していただく」という段階から，「一緒に造り上げていく」という段階にきている。そして，このことが継続していく上での課題にもなりえる。